

2023/11/4(Sat) > 11/30(Thu) 2025めざしてスマートな御堂筋をつくる社会実験

【趣旨】万博サテライトプランを意識した取組を実施(道協団体・国と連携) 1.万博機運醸成に関する実験(MX推進)、2. DX・GX推進、3.御堂筋の利活用・ 回遊創出

【期間】2023年11月4日(土)~11月30日(木)

【実施主体】大阪市建設局・NPO法人御堂筋・長堀21世紀の会/一般社団法人ミナミ御堂 筋の会(大阪市指定・道路協力団体) 国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所

御堂筋で取り組んできた4回の社会実験

第1弾:2017

モデル区間整備・御堂 筋完成80周年をきっ かけに、将来の魅力あ る滞在空間を可視化



第2弾:2020

歩行者利便増進道路指 定を念頭に区域指定・ 整備の検証と、道路協 力団体による継続利活 用の実験



第3弾:2021

道路協力団体による利 活用拡大と、周辺・な んば駅前広場とも連携 した歩行者回遊データ の検証



第4弾:2022

第3弾のさらなる拡張 道路協力団体による利 活用拡大と維持管理ス キーム検証、歩行者回 遊データの検証



- モデル区間完成(2016)
- · 御堂筋80周年記念事業 (2017)
- 御堂筋将来ビジョン策定 (2018)
- 新型コロナウィルス感染拡 大(2020~)
- · 道路協力団体指定 (2020)
- · 2期区間整備開始 (2020)
- 步行者利便增進道路指定 (2021)
- 東京オリンピック・パラリ ンピック開催(2021)
- ・2期区間整備、完成 (2022)
- 步行者利便增進道路特例区 域指定(2021、2022)
- ・ほこみち全国フォーラム (2022)
- ・なんば駅前広場工事着手 (2022)

背景:2025年に御堂筋万博サテライトプランを実施

- ・2025年の大阪・関西万博開催にあわせて、大阪を訪れる世界中の人に、世界最新モデルとなるストリートを体験 してもらうことを目標に、「世界最新モデルとなるストリートの可視化〜みちの未来を体験〜」を御堂筋万博サ テライトプランの基本方針とする。
- ・基本方針のもと、これまでの検討経緯や、「御堂筋将来ビジョン」で掲げた3つの将来イメージシーン、「大阪 府・大阪市の万博アクションプラン」をふまえ、5つの取組方針を位置付ける。

2025 御堂筋万博 サテライトプラン 基本方針

世界最新モデルとなるストリートの可視化 ~みちの未来を体験~

Comfort

I おもてなし環境

世界各国からの来 訪者を、おもてな しする環境を整備 する

Activation

II 賑わいづくり

ナショナルデーな ど国際色のある式 典開催や歩行者天 国により賑わいを つくる

Mobility

Ⅲ モビリティ との共存

> 次世代モビリティ や自律型ロボット など歩行者とモビ リティが共存する 空間をつくる

Ecofriendly

IV 環境にやさしい

緑化活動やカーボン ニュートラルなど環 境にやさしいまちづ くりをめざす

Digital

V デジタル技術

デジタル技術を活 用した回遊性の向 上や持続可能な道 路の維持管理をめ

⇒「御堂筋チャレンジ2023」の実施を、御堂筋万博サテライトプランのプレ実験に位置づける

「御堂筋チャレンジ2023」実施期間

11月 4日 (「座・御堂筋」実施日) ~ 11月30日(万博500日前)



環境改善・ 回遊促進 ・ 沿道適正化の取組

1. 歩行者利便増進に向けた利活用(イベント)

◆ 継続的に財源確保が可能か

■ アメリカ村の会と連携したイベント





【課題】歩行者数は多いが立ち止まって見る人は少なく、イベントとしての認知度向上やイ ベントを目的に来場するファンづくりが課題としてあげられた。

<u>道路協力団体主催のイベント(コーヒーフェスティバル)</u>





▲心斎橋の中心部で展開できたことは総じて好評で、次回を期待する声が多く

【課題】事業の黒字化が課題であり、継続に向けた主催者側の収入増加、開始時期や期間の 工夫等が求められている。

◆ 歩行者利便増進に向けた活用

座·御堂筋

■ 道路協力団体主催のイベント (座・御堂筋)



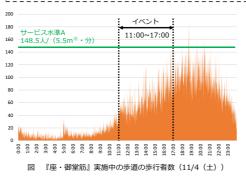


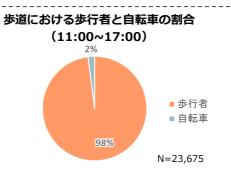
マルシェ開催等の 利活用に対する評価

進めない方が良い ぜひとも進め いえない 24.6% 22.8% 進めること は良い 51.5%

▲ミナミ御堂筋らしいスト リートマーケットを万博 に向けて開催することに

収支は赤字のため、自律的な運営が可能となる資金獲得・マネタイズ、ファンづくりが必要 である。





◆ ベンチ・サインが最終形としてふさわしいか

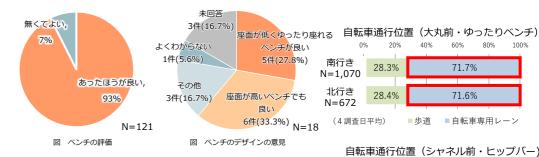




歩行者利便増進に向けた利活用(ベンチ設置)



▲利用はゆったりベンチの方がヒップバーベンチよりも多く見られた。



▲ベンチを利用していない人 ▲ベンチの形状に対する からも設置が望まれている。 意見は分かれている。



▲いずれの形状・配置でも一定の 整流効果が見られ、ベンチ形状 や配置による大きな差は見られ

■歩道 ■自転車専用レーン

北行き

N = 605

(4調査日平均)

▲ごみの量はヒップバーベンチの方がゆっ たりベンチよりも少ない。

> ベンチ設置の方向性

整流効果として期待できる端部への設置を基本として、最終的な配置(設置数を含む) 及びデザインについて、引き続き検討する。

▶ 持続的な賑わいの創出の実現に向けた方向性

✓ イベントの内容、時期、期間等、当地にふさわしく持続可能な賑わい創出のあり方を引き続き検討する。

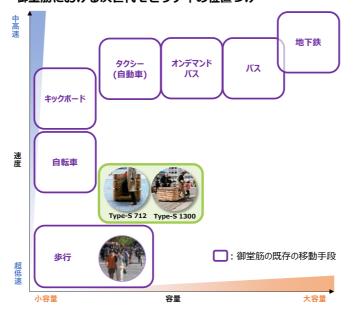
3. モビリティ共存

◆ 次世代モビリティの安全性等検証

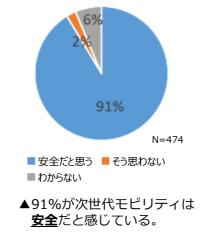




御堂筋における次世代モビリティの位置づけ



モビリティ乗車の安全性



■安全だと思う ■そう思わない ■ わからない

歩行者がいる場所での走行安全性

▲70%が歩行者がいる場所を走 行しても**安全**だと感じている。

109 88% N=473

万博へのふさわしさ

■ 万博にふさわしい思う ■ そう思わない

▲88%が次世代モビリティ走行 することは**万博にふさわしい**と 感じている。

▶ 御堂筋における次世代モビリティ共存の方向性

✓ 次世代モビリティの安全性や新たなニーズを確認できたことから、今後の取組として検討する。

輸送実績から低速かつ中程度の輸送力が確認できた。▶

4. GX技術

◆ 路面太陽光発電の活用





▲路面に設置した太陽光発電パネルで発電し、 「歩きスマホ」に対して、注意喚起。

Q.ガラス導光板による注意喚起を見た上で、歩きスマホをやめましたか?



▲約50%の方が歩きスマホをやめたと回答。

◆ 床発電の活用





▲歩行者がパネルの上を通行すると振動により発電。

Q. 床発電パネルを活用した歩道上での発電は全国的にも新しい取組 です。今後の普及展開は期待できそうですか?



▲約60%の方が今後の普及展開が期待できると回答。

> GX技術の方向性

✓ 道路空間における路面太陽光発電による「歩きスマホ」の注意喚起効果や床発電の設置による期待のニーズが確認 できた。引き続き太陽光発電等を活用したCO2排出の削減等のカーボンニュートラルの取組を検討する。

5. デジタル技術活用

◆ プロジェクションマッピングによる歩行者・自転車の整流化、歩道と自転車道の分離







▲投影した自転車のピクトグラム上を通行する自転車やキックボード。

▲投影した歩行者のピクトグラム上を 通行する歩行者。

◆ プロジェクションマッピングによる効果の検証



▲自転車のピクトグラムにより、北進する歩行者が歩道寄り (図中の上側) に進行方向を変えた状況を確認。

■見やすい 88.9(224) ■見にくい Q.プロジェクションマッピングの内容を見た上で、通行位置を変更しま したか? 80% 100% 57.1% (144) 42.9% (108)

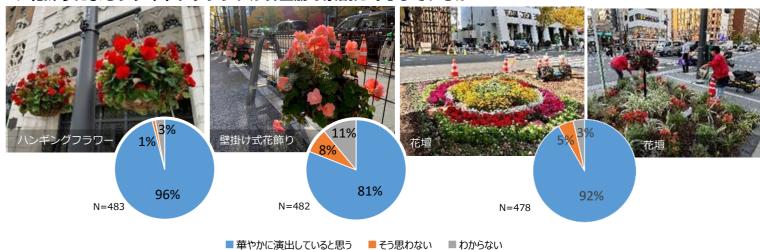
▲約90%の方がプロジェクションマッピングが見やすいと回答。 また、約60%の方が通行位置を変更したと回答。

> デジタル技術活用の方向性

✓ プロジェクションマッピングによる歩行者の行動変容や自転車道と歩道の一定の分離が確認できた。引き続き観光 客などの歩道の誘導に向けた取組を検討する。

6. シティドレッシング

◆ 花飾りによるシティドレッシングが御堂筋の景観に寄与しているか



▲御堂筋を華やかに演出していると感じられる割合は、ハンギングフラワーが96%、 壁掛け式花飾りが81%、花壇が92%と、いずれも高評価であった。

> シティドレッシングの方向性

✓ 花飾りによるシティドレッシングが御堂筋の華やかさの演出に寄与していることが確認できたことから、今後の取組 として検討する。

7.地域情報案内板の設置

◆ 情報発信スポットの設置(地域情報案内板)の有効性





(2期整備区間東側 ほこみち特例区域内) (画面の大きさ(50インチ程度)を北向きに設置)(画面の大きさ(50インチ程度)を東向きに

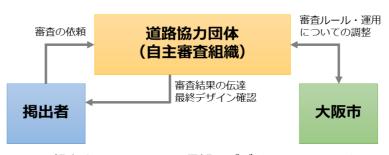
▲サンドラッグ前

(2期整備区間東側 ほこみち特例区域内)

※11時、13時、16時台の 道路に対して垂直に設置 100% 80% 60% HIPS前 御堂筋グランドビル前 ■ 通行中に視認(チラ見) ■ 立ち止まり視認

▲HIPS前、御堂筋グランドビル前は案内 板前に立ち止まり視認する割合が高い。

◆ 自主審査組織によるデザインクオリティの確保



▲掲出するコンテンツの景観・デザイン面のチェック として道路協力団体による自主審査組織を設定。



◆自主審査によるデザインのテンプレート化





▲禁止系のデザイン、色調の統一や、公共系のデザイン の改善、テンプレート化を実施。

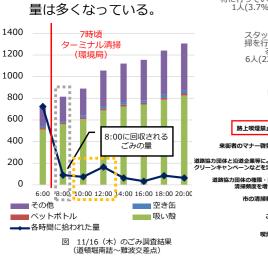
> 地域情報案内板設置の方向性

- ✓ 画面の大きさや向きなど、交通や景観における影響等の検証結果を今後の地域情報案内板の整備に活かしていく。
- ✓ 景観に配慮したデザインコントロールについて引き続き検討を進める。

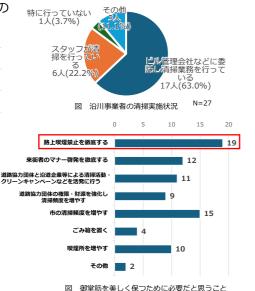
徒歩5分圏内

環境改善

▼ターミナル清掃の時間が7時 代に早まったことで通勤時間 帯はゴミが少ない状態が保た れているが昨年度からゴミの



▼清掃している沿道事業者は多く、 今後は路上喫煙禁止の徹底などの 啓発活動の実施が望まれる。



▼情報発信等の取り組みで回遊を促し、来訪範囲が拡大・分散

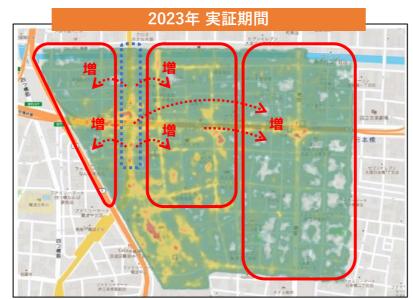


図 携帯アプリGPSデータの分布範囲の変化

・2021年調査と比較しエリア全体

エリア全体の集中台数が増加した

一方、エリア別の調査結果では、

リアルタイム撤去が行われた御堂

筋西側(W1、W2エリア)で放

置自転車の減少傾向がみられた。

集中台数に比べ、駐輪場利用台数

の増加割合が高いことから、駐輪

場利用率が向上したと考えられる。

4%・休日で約5%増加した。

での自転車集中台数が、平日で約

調査結果概要

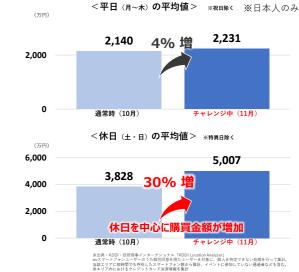
まちへの波及効果把握の取り組み (御堂筋合むミナミ周辺エリア)

▼来訪者数の変化





▼クレジットデータによる消費金額の変化



回游件創出の方向件

- ✓ 実験期間中の11月と前月10月のデータ(休日)を比較すると、御堂筋を含むミナミ周辺エリアにおける 来訪者数は約1割増、クレジットカードデータに基づく消費金額は約3割の増加を確認。
- ✓ 本利活用社会実験の効果として、人流や購買データは、反応性の高いデータであることを確認。

駐輪状況

沿道適正化に向けた取組(放置自転車)

【御堂筋(長堀通~道頓堀川)】

◆ エリアごとの放置自転車・駐輪場利用台数を確認





増加傾向

増減比率(対2021年)

▲エリア全体での自転車台数比較 (対2021年調査)

◆ 放置自転車インタビュー調査

▼放置理由のほとんどは駐輪場に関係なし。

【御堂筋(道頓堀川以南)・なんばエリア】



◆ リアルタイム撤去後の全数調査

▼リアルタイム撤去と報道の効果はあり1か月持続。

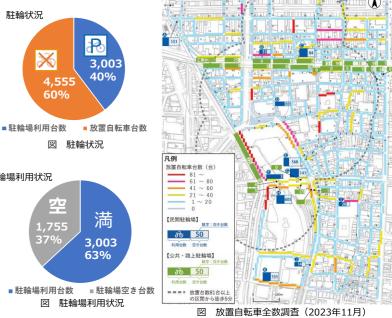
▼駐輪場利用につながらない。

駐輪台数 (時間平均) の推移 ※6時台、24時台は営業時間外のため観測不能な駐輪場あり リアルタイム撤去後、 集中撤去後は 40台放置台数減少 集中撤去後は232-306 台放置台数減少 6,000 5.000 4.000 3.333 3.027 3.101 3 000 減小傾向 2.000 1.000 リアルタイム撤去後 集中撤去後 リアルタイム樹去後 集中撤去後 平日 休日

駐輪場利用台数 ※ 放置台数 図 駐輪台数 (時間平均) の推移

◆ 放置自転車全数調査

- ▼撤去しきれない台数の放置自転車あり。
- ▼深刻な放置箇所の徒歩5分圏内に駐輪場空きあり。

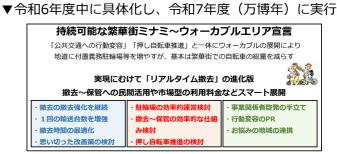


駐輪場利用状況

3,003 ■ 駐輪場利用台数 ■ 駐輪場空き台数 図 駐輪場利用状況

図 駐輪状況

◆ 今後の方向性



エリア別・時間帯別放置自転車台数



- > 放置自転車対策(御堂筋(長堀通~道頓堀通))の方向性 ✓ リアルタイム撤去の実施及び自転車利用者への広報活動を継続。
- エリア全体での増加傾向に対し、リアルタイム撤去 を実施した御堂筋西側エリアは減少傾向がみられた